

ニュースレター

Vol.11

# 三千里

삼천리철도

## ❖ 新たな鼓動

三千里鐵道 理事長 トサンテ 都相太

昨年5月17日に非武装地帯を越えて、南北の鐵道が開通しました。

キヨインソン 京義線 (ソウル—シニジュ 新義州間 518.5 キロ) では、南側ムンサンの汝山から北側ケソンの開城まで韓国の列車が走り、トンヘソン 東海線 (襄陽—アンピョン 安辺 192.6 キロ) では、北側クムガンサンの金剛山から南側チョジンの猪津まで北側の列車が走りました。



京義線は56年ぶり、東海線は57年ぶりの開通であります。

蟻の一穴という言葉がありますが、まさしく朝鮮半島にとって、平和と統一の象徴としての肯定的「蟻の一穴」になるに違いありません。

冷戦と分断の象徴としての38度線が、朝鮮半島の新たな動脈としての息遣いを取り戻した意味は非常に大きなものです。

昨年10月2日から始まったノムヒョン 盧武鉉大統領とキムジョンイル 金正日国防委員長との会談での8項目の合意は、2000年6月15日の共同宣言を、より具体化したものであります。(別掲した共同宣言全文を参照にしてください。)

この2月、韓国ではイミョンバク 盧武鉉大統領から李明博大統領に政権が移ります。

現政権の經濟問題が最大の争点となり、10年間続いた革新政権が保守政権に回帰するとマスコミなどでは騒がれていますが、こと南北問題に関しての後退はありえないと考えています。

結論的にいえば、南北の交流・融和・協力は双方の利益そのものであるからです。また、南北問題は東北アジアの平和にとって、最大級の案件でもあります。

なによりも南北が負担する膨大な国防費の削減の道を開かねばなりません。

戦争こそが、最大の環境問題といわれていますが、朝鮮半島での再びの戦禍の可能性を最小化しなければなりません。

在日韓国人の私にとって、朝鮮半島と日本の関係も大きな関心事であります。

歴史認識問題、拉致問題、核問題などにより、在日状況が朝鮮半島の変数として、われわれに覆いかぶさってきます。

在日としての立つべき姿と果たすべき役割を明確にしていきたいと考えています。

## ❖ 新年の辞

囲碁クラブ・三棋会会長 キムヒテ 金輝泰

明けましておめでとうございます。

8年前、分断された祖国の南北を鐵路で繋ごうと、とてつもない提案をされた人物が、三河の地から出たことに誇りを感じています。昨年は2回目の南北首脳会談が実現し、私たちにも統一が迫って来ると、段々と実感できるようになりました。

囲碁は「手談」とも言います。白黒の石を介して会話し、心を通わせるのです。私たちはいろいろな方たちの心と心を繋げて行く囲碁活動を通じて、三千里鐵道の夢の実現に少しでも手助けになればと願っています。

皆様のご活躍と幸せを祈念します。

## ◆ 大統領選挙雑感

三千里鐵道 事務局長 ハンキドク 韓基徳

2007年12月19日の大統領選挙は、予想にたがわず、ハンナラ党の李明博イミョンバクが圧勝した。

ろくな政策論争もしないまま、反盧情緒とBBK疑惑だけが目立った選挙の中で、最も注目すべきはといえば、これまでの選挙において、最大の争点と変数であった南北問題が争点から完全に消えていたということだろう。

それは、盧泰愚時代に始まった南北交流協力拡大路線が、金泳三キムヨンサムの金日成との首脳会談企図(金日成の死亡により成就せず)、金大中キムデジュンの『太陽政策』、盧武鉉ノムヒョンの『包容政策』と継承され発展する中で、もはや国民の合意事項になったということを示している。

冷静に世界の中での南の位相を考える時、北はとうの昔から敵であるはずはなかった。政治、外交、軍事のいずれを見ても、両者の差は歴然としていることに加えて、経済においては、南北の平和定着と協力拡大は、北よりもむしろ南の死活問題だからだ。

南北が緊張すれば海外からの南に対する投資が冷え込むことは、ムーディーズのような格付会社が明言してきたし、中国の台頭に直面し日本と中国に挟撃される南は『サンドイッチ・コリア』と形容されて久しい。特に短期的な視点で見ると、南は北との協商拡大しか生きる道はないのである。

私は、実は、李明博政権の誕生を消極的ながら望んでいた。韓国の政治風土では、進歩勢力は野党にいてこそ力を発揮できるとかねがね思ってきたからだが、実はもっと大きな理由がある。

南北和解協力に向かおうとする南の政治情勢に全く疎いまま、日本の反北・付和雷同・低レベル廃棄物垂れ流し言論に歩調を合わせてきたアナクロ民族団体に、良い薬になるのではないかと考えるからである。

李明博次期大統領の対北政策は、「非核・開放・3000」と称される。北が核を放棄し、開放政策を取った場合、北の国民の所得3000ドルを目指して協力するというものだ。

ひとまず、期待したいな。

## ◆ 三千里鐵道と私

三千里鐵道 副理事長 磯貝治良

京義線の貨物列車第1便が38線(サムパルソン)を越えて走った。その報に胸が高鳴った(ちょっと大げさかな)。三千里鐵道の活動に加わっていても、拍手を送っただろうが、ワクワクすることはなかっただろう。「三千里」のおかげで想いは2乗になった。活動はやや低迷気味だが、気持は持続していることを再確認。朝鮮半島の和解と統一は日本人にとっての「戦後責任」なのだから、持続はあたりまえなのだが。

なにかトピック(たとえば頂上会談や共同声明)な出来事があると、ワーッと盛り上がり、進展が止まると熱が冷める、といった情緒的なのは好きでない。その点、「三千里」の運動が地道に、具体的で、持続を旨としているところが魅力。

統一への志向は思想化されなくてはならない。その思想は血肉化されなくてはならない。でも、思想をイデオロギー化したり、理念的に謳いあげるばかりなのも、違和感を感じる。思想とワクワク感が結び合っこそ、力が発揮できそう。

7年前、三千里鐵道を立ち上げる場に出席した。都相太さんとは、名前は知っていたが面識はなかった。知った顔は、姜春根カンチュンさん、韓基徳ハンキドクさん、鄭戴宇チョンヂェウさんら数名。チュングニさんとは70年代初め頃、金芝河キムジハの救命運動で知り合い、キドギさんとは80年代の指紋押捺拒否運動で活動を共にして、それぞれ長い付き合い。チョン・ヂェウさんは在日朝鮮人作家を読む会のイベントに参加してくれたりした。わたしは生来、会長とか何々長とか、長の付くものは敬遠している。それなのに副理事長を二つ返事で引き受けたのは、協働して進める活動だから、日本人の窓口役もいたほうがいいと思ったから。また、旧知の人たちと濃厚でやりがいのある活動が出来そうだったから。思いは見事、的中。

おかげで鉄道連結の寄金を韓国政府に伝達した際には、丁世鉉チョンセヒョン統一部長官(当時)と言葉を交わせた。JSAツアーで板門店パンムンジョムを訪れて休戦会談が開かれた部屋にも入った。悲願の統一のために働く、韓国の市民活動家、かつての民主化運動の闘士、国会議員

などと会うことも出来た。朝鮮半島の和解と統一に向けてダイナミックに展開される、時々刻々の動きが幾分かは身近に感じられるようになった。事務局会議も（2次会の談論風発も含めて）時間の経つのが惜しい。半世紀近くさまざまな活動に関わってきたけど、重たいばかりのはずの会議が気持ちいいのは、七不思議だ。

三千里鐵道の活動に加わって一番、得をしているのは私らしい。得ばかりしては申し訳ないので、もう少し実（じつ）のある関わり方をしなくては……

## + シリーズ 十字路

### 在日コリア協議会、ついに出帆

2006年6月15日の南北共同宣言と昨年10月4日の宣言は、在日コリアンに祖国統一が夢でないことを強く印象づけた。すでに昨年から大統領が徒歩で超えた軍事境界線を、ソウル・ケソン間貨物列車の定期便が運行し、南北の軍事、経済、文化、スポーツ等すべての分野において活発な交流が進行している。

このような状況下において昨年8月4日、日本各地で地道な活動を続けてきた、在日のグループやサークルの代表者が一堂に集まった。

出席者は、それぞれの地域での活動を報告し、「在日の和合」、「コリアの平和」、「世界の融和」そして「大きな和」の実現に向けて力強く進んでいく決意を新たにした。

この日の会合では、会長、理事長等の人事、会の会則、当面の事業計画等も発表、承認された。

尚、在日コリア協議会の船出に際し、結成祝賀会を2008年3月16日（日）午後4時30分から、東京上野の東天紅にて開催する。

連絡先：在日同胞親睦会内 03-3835-2829



## ❖ シリーズ サラム・人

### 「在日」に生きて、心は錦

尹（平沼）<sup>ユン</sup> 勇吉<sup>ユンギル</sup>

兵庫県尼崎市在住、民族学校を通ったことのない在日でありながら、早くから祖国愛、民族愛に目覚め、信念を貫いてこられた。尼産高校を経て大阪経済大学を卒業、30歳で尼産建設（株）を設立、バブル絶頂期には大阪城より高いビルを建てることを夢見た人である。その傍ら、地域の民族学校や朝銀、商工会の仕事もしながらピョンヤンで金日成主席とも謁見している。

87年、尼産ビル5階に民族図書館「錦繡文庫」<sup>クムス</sup>を開設、南北朝鮮と日本の架け橋になろうと、イベント、講演



など多彩な活動をしてきた。高校卒業の春、4.19の蜂起によって李承晩<sup>イスンマン</sup>が倒れたとき、次の次、そのまた次の次くらいは自分が大統領になって国を変えようと思ったと笑いながら話した尹氏……。そんな尹さんが気の遠くなるような南北の閉塞状態に在日の立場から行動を起こそうとしたとしても何の不思議もない。

まさに錦繡文庫は尹さんの生き様、信念の結晶である。ここには書籍ばかりでなく、北の三池淵<sup>サムジョン</sup>、済州島<sup>チュジュド</sup>の名画が飾られ、日本の左右の政治家や学者、南北の文化人等の書や写真等が調和をなして配置されている。このような地道な活動が評価され、韓国「20世紀功勳人士総覧」にも掲載された。

一昨年の1月21日、尼産グループ35周年を祝う会が盛大に開催された。この日は、自叙伝「心は錦」の出版祝賀パーティーを兼ねた。尹さんの永年の活動を近くで見えてきた参加者から、会の後メッセージが寄せられた。もうこのような閉塞状況は嫌だ、錦繡の会みたいなものを作って在日からも何かしようではないかと。（裏面に続く）